

お茶をベースに他業種へ拡大 08年には JGAP を茶園で取得



▲原田宗一郎社長

大正6年創業の100年を越えるお茶メーカーだが、近年はお茶をベースに他業種へも軸足を広げている。中でも一番規模が大きいのがセレモニーホールの運営、年間の葬儀件数は6千件弱と日本ではベスト10に迫るような規模となった。JAが葬儀を扱うようになったときに、農協系の茶商として一緒に始めたのがきっかけになっている。

食品関連では、アフタヌーンティーや山本山などとも業務提携を結んでいる。お茶売場でカテゴリーリーダーとなっているスーパーも多く、豊富な商品を揃えた棚を作り、売り場の活性化につなげようというもの。山本山はそもそもがお茶の老舗で、江戸に狭山茶を広めたのが同店だった。老舗ブランドを活かし、高級茶や玉露の品揃えをスーパーでも展開していく。

SDGsについては、30年までに持続可能でより

よい世界を従業員と共に目指していくことを掲げている。08年には世界初のお茶のモジュールでグローバルGAPの認証を取得し、次いでJGAP、アジアGAPの認証を取得した。自社農園および契約農家と環境に配慮した農業に取り組み、食品安全違反のないよう法令・規制情報等も伝達するほか、お客様へは安心・安全な製品の提供、スタッフへは安全と福祉を推進している。食品廃棄では製茶工程で排出された茶の廃棄物を堆肥としてリサイクルし、年間約200tを自社農園で利用している。

その他SDGsで掲げる目標のうち②の飢餓に終止符を打ち持続可能な農業を推進するでは、全国の茶生産農家にノウハウを提供し、小規模農家の高品質化を進め、顧客ニーズにあった製品企画を提案するなど、茶業界全体の付加価値向上を進めていく。④は、インターシップや小中学生の職業体験、子供向け体験教室を開催し、若者の社会的スキルや働く意識の醸成に貢献する。⑦は、30年までに再生可能エネルギーを45万キロワット発電する。⑧は、30年までに全従業員の有給取得率80%を達成し、30年までに全従業員の総労働時間を20年比で7.7%削減する。⑪は、30年までに営業車両の95%を電気自動車もしくはハイブリッドカーに切り替える。⑫は、30年までに従来の賞味期限より長期化した商品を200点開発する。⑭は、30年までに紙使用製品を20点増加。⑮は、30年までにGAP原料使用を謳った製品を荒茶原料ベースで30t以上製造・販売する一としている。



▲JGAP 認証取得の茶園